

コロナ禍で再認識した 「士業のあるべき姿」とは？



司法書士法人あいおい総合事務所
司法書士 清水 敏博

「司法書士法人あいおい総合事務所」では、相続や遺言、成年後見、老後の生活設計など、くらしや住まいの身近な法律相談から地域活性化プロジェクトまでを担っています。また、「LTR コンサルティングパートナーズ」の理事長として他士業とのワンストップサービスを実現し、地域貢献活動（未来づくり活動）にも積極的に取り組んでいます。ここでは、コロナ禍が続く中で再認識した「これからの士業のあるべき姿」などについて、お話しさせていただきます。

あらゆる問題をワンストップで解決したい

「地域の皆さまと共に豊かな未来を創りあげたい」という想いから、2001年に「あいおい総合事務所」を設立しました。当事務所が目指したのは、個人や会社を問わず、地域の皆さまが何か困ったときに「そうだ！ あいおい事務所に聞いてみよう」と気軽に相談し、頼りにしていただける存在になること。大きな事務所にはない、スピード感と小回りの利く迅速さを活かしながら、徐々に相談件数が増えていくようになりました。

さまざまなお客さまにお会いする中、やがて一つの士業だけでは解決できない問題も発生するようになりました。これでは、せっかく士業の元を訪れていただいたにもかかわらず、お客さまが労力を費やすことになってしまいます。そこで考えたのが、各専門家とのネットワークをつくることでした。緊密な連携体制をとることで、素早く的確な対応が可能になると考えたのです。さっそく顔見知りの弁護士や税理士にこの話をすると、実は共通の想いを持っていることが分かりました。その日のうちに結束を固め、意気投合した私たちは、2001年に「LTR コンサルティングパートナーズ」を発足しました。

あれから 20 年、苦楽をともにしてきた LTR メンバーは、単なるビジネスパートナーという関係ではありません。「お客さまに最善・最適なサービスを提供したい」という共通の志のもと、お互いの強みを強化し、弱みを補完し合える強い信頼関係によって結びついています。

今こそ LTR として

“ワンチーム”のサポートを！

LTR では、「地域経済の元気を取り戻そう」という想いから、3 月中旬に「新型コロナ緊急対策室」（初回面談まで無料）を立ち上げました。こんなときこそ、LTR として“ワンチームのサポートができる”と感じたのです。現在も、コロナに起因した経営の問題を抱えている中小企業・小規模事業者の皆さまからのご相談を優先的にお受けしています。また、国や行政の支援策などの情報は、その正確性を意識しながら、引き続きお伝えしたいと思っています。

これからの士業は「ためになる情報の収集・編集・発信を行うキュレーター」「人と人、人と企業、地域と企業をつなぐ橋渡し役」「地域の課題解決のためのフロントランナー」という新たな役割を持つべきだと考えます。士業はこれまで、どちらかという“黒子的な役割”を担っていました。しかし、社会のさまざまな課題が顕在化する昨今は、知識や経験を基に問題に対して向き合い、先頭を切って取り組むことこそが、士業のあるべき姿だと実感しています。

LTR は、今後も新しい時代の新たな士業への期待にお応えしていくために、変化を恐れずチャレンジを続けていきます。そして、SNS が発達している今の時代だからこそ、地域での顔の見える関係性をこれまで以上に大切にしていきたいと考えています。（司法書士 清水 敏博）